いわき民報

平市田町四丁目八番地　電話三一番
印刷兼發行人　千葉克巳
日刊　但月曜を除く
定價一部一円廿銭　一ケ月十七円
發行所　いわき民報社

# 兩相そろつて炭鑛視察

## 經營者や勞資代表とも懇談

民主黨文部大臣へ臨む來福、竹田兩相、小澤代議士連の一行は十七日午前六時四十五分平着列車で來平、全夜東部石炭鑛業會で炭鑛經營者代表と懇談、一泊の上十八日午前中常磐炭鑛及び古河炭鑛等を視察、時間の許す範圍内で勞資代表連とも會見、增炭問題を中心にヤマの經營面やその他についても隔意なき意見の交換を行い大いにヤマの戰士達を激勵、三千三百萬トン達成を懇請することにもなつているので非常に期待されているが皆に藏相の來平は大きな注目の的となつている

## 迎え相兩田竹栖來

## 民主黨支部結成大會

### 十八い盛大に平市公會堂で終つて歡迎大懇親會も開く

舊年末の豫定のところ都合により新春にのばしていた民主黨石城支部の結成大會は、いよ〳〵十八日午後一時から平市公會堂に市郡下の民主黨員を網羅して、中央から來福藏相竹田國務相が小澤等七郎代議士を始め橋本萬右衛門、參議院議員山下春江代議士、長谷川愛知縣代議士等とともに臨席春早々わが黨の氣勢をあげることになつた、當日は宣言決議等を行い、役員もそれ〴〵決定した上、演說會に入り來福、竹田兩相の演說、小澤代議士の挨拶等があり、午後三時から日本間に兩相歡迎會を兼ねた一大懇親會をも開催する段取りでいる

## 縣會農地部

## 耕地視察

きようから四日間

縣會農地部阿部、木田正義委員長等一行七名は十三日から十六日までの四日間の豫定で郡内各耕地事業の視察を行うため來郡した

## 知事賞は

## 本田強君

郡連青雄辯大會

平第三小學校に雄辯大會を開催した入賞者左の通り

◉一等知事賞本田強（信仰に生ける記帳生活の實際）◉二等古口ヨシ子（日本再建の途上にある青年の覺悟）◉三等大平四郎（新日本

## 日農青年部の結成へ

### あす農業會で準備會を開催

日農石城協議會では協議會内に日農の方針、政策を具体化す推進母体として今度組合員の子弟並に町村の進歩的な青年達を糾合して强力なる青年部を結成せしめることに決定十四日平市田町農業會事務所内に支部長會議と同時に青年部結成準備會をも開き具体的結成方針等を決めるが、青年部は本月末までには結成の豫定で注目されている

## 日農石城協議會

### 青年の自覺

## 會議

### あす平市に開く

日農石城協議會では十四日平市田町の農業會事務所に支部長會議を開き、農地改革の徹底、民主的な農業協同組合の結成とその運營、農組の擴大强化と懇談會、生産奬勵の平均と供出の公平化等々に就て協力政吉會長を中心に留意本年の活動方針その他について打合せることとした

## 鯨町の公安委員決定す

鯨町の公安委員は左の如く決つた

◉鯨清章（五三）農業◉長谷川喜七（三一）工場長◉佐川良吉（七三）農業

## もも生産炭木山冬

## 示すを調好

### 一掃は問題

冬山木炭增産期間は一月から三月迄

目標は五百三十二万六千八十五㌔であるが、うち一月上旬の成績は三十四万四千九百九十九㌔で生産成績は非常な好調振りを示しているが、然し今後の增産が目標突破の鍵でありかつ生産されてもヤマに眠らせぬよう滯貨の一掃が重大なこと

## 目標達成は大敷判

平市の義團募金

平市の義團募金運動の結果は好調を示めし一月上旬で目標額三十三万九千円に對して二十九万の八十五%强となつているが、なお區内からの未徴收八万円も近々納入されるとあつて目標は完全マスター出來ると張切つている

## 棒炭無償配給

### 引場者連盟平支部

海外引揚者磐城連盟平支部では酒冬炭資金造成につとめた結果、殺分餘裕がついたので支部全家庭に棒炭を一世帶六十個の割で無償配給する、日時は十四日午前十一時から二時まで城山の近納棒炭工場で

## 樂藥藥者に

## 清酒を特配

### 平市役所では丟年八月から十二月まで實施された早期水炭業業者に對する清酒の特配が九月分までの五石二斗九升が入荷したので次の割合で六百五十甚分配給する（三十俵迄七合、三十一俵―五十俵迄八合、五十一俵―百俵迄九合、百俵以上一升）

## 市の蔬菜配給所決る

### 五團體が公認登錄となるのである

市は今度乙地蔬菜消費地域に指定された、これにより左記五團体が蔬菜及び副物配給所に公認登錄されて十五日から實施されることに決定した、配給所は實受傳に價格等を店頭に表示して一般消費者の利便と配給の公正化を來すことになつている

◉平青果荷受組合（新川町服部一美）◉磐城青果物荷受商業協同組合（四丁目馬目武之助）◉生活協同組合石城支部（五丁目大内近夫）◉市農業會（下平窪國府田生男）◉市青果物荷受協同組合（田町國塚榮吉）

## 平市の經濟取締り强化

平警では十三日正午から平驛に一齊經濟違反取締りを實施、近時敷物の少なくなつたのに乘じてヤミ買出し等が增加したのでこの强化となつた

## いよ〳〵公開

### 高峰秀子の愛よ星と共に

◇十三日―二十日迄

第二イワキ　電話十二

## いわき寸言

◉來福竹田兩相炭鑛視察の上勞資代表と懇談するとはよし

◉實際面につき當局者の宮を樂ぐことは大疑といへども最もよき勉强

◉實際をみず机角机の上ですべてを算盤塾ではじき出そうとするところに民の不幸はいつもある

◉器に入つての冷めたさ家なきんを思うとき身の毛もよだつ

## 葉タバコ運搬中を

湯本町三國無職松田政二（二五）は去る八日午前十時頃内郷町小島附近で葉タバコ約七貫目を湯本行のバスで運搬中を平署員に御用

トウトランプ
一般照明用・鑛山・特殊電球
福島縣指定配給元
東京電氣商品株式會社
平出張所
平市田町16・TEL54

菊地德太郎儀東京大學病院に加療中の處榮石効なく一月二日死去致しました
就ては生前の御厚誼を拜謝し略儀乍ら紙上をもつて御知らせ申し上げます
尙告別式は一月十六日午後一時より三時迄自宅にて執行致します
昭和二十三年一月十三日
平市田町五一番地
喪主　菊地晨子
妻　菊地秀子
親戚總代　菊地橋四郎
友人總代　水谷長三郎
星島二郎

◇入院室完備◇
産科
婦人科
齊藤醫院
院長　齊藤正雄
平市南町電九〇二

# 白水阿彌陀堂概觀

史談會員　菊地康雄

## 一、まえがき

史談會一月の行事として白水彌陀堂を見學する事になつたから案内する樣にと世話人の鈴木光四郎先生からお葉書を頂いたのは昨日だつた。今日改めて見學の案内狀を頂いたが、堂宇や佛像を拜觀する時に豫備知識がある時と無い時では興味も違ふし面白くもない場合が多い事を体驗しているので老婆心からのこの稿の筆をとつた次第である。

記述は文字通り概觀を記すにとどめ、くわしくは堂宇や佛像に就てお話致したい。

寶は數年前同樣な題で書いた事があつたが意に滿たず書き改めて置きたいと考えないでもなかつたのでこの期會に手を入れる事にした。

私の阿彌陀堂の研究はこゝ數年來で堂の大なるに比すれば微々たるものであるが將來は是非何らかの形でまとめたい希望をもつている。阿彌陀堂に關する資料を御存知の方がありましたら何分の御高敎をお願いする

## 二、藤原時代の美術

白水阿彌陀堂の事を記すに當り藤原時代の美術に就て記したい。藤原時代とは宇多天皇の寛平年菅原道眞の上奏によつて遣唐使の停止を聞した寛平の初年より安德天皇が西海に入らせ給ふた壽永四年まで二十三代二百七十余年間を美術史上稱するのである。

當代は外戚藤原氏の勢力は「望月のかけたる事の無しと思へば」と詠じた如く專横の極の時で、所謂貴族藝術隆昌時代であつた、その特長はひたすらに優美、華麗の表現を理想とする、耽美的、貴族的藝術であつた事は、遺構遺物によつて徵する事が出來る。

遣唐使の停止によつて大陸の文化は入らず、飛鳥以來の模倣時代が過ぎ眞の同化時代が現出し加ふるに獨創的氣運を見るに致り日本的な文化が建設されたのである。

末期には藤原氏の勢力は漸く衰えると共に、天皇は上皇となつて政治をみそなわせられ所謂院政時代となり六勝寺を初め盛に伽藍の建立が行われた。

佛敎は天台、眞言の二宗が表面盛んで密敎美術を殘したが、加持、祈禱、御修法の宗敎であつて多くの人々が寶崇する所は新に隆盛となつた淨土敎であつたが故に、多くの阿彌陀堂建築が造營され、そのプランも種々に發達したがその代表的建築は宇治の平等院鳳凰堂である。

這佛は定朝の七條佛所が隆盛で盛んに佛像を造り、多くの需要を滿す爲寄木の法が大成された。

東北にありては、藤原氏が後三年の役後、砂金と馬と絹の物産を一手にして富强市ふ考なく、京都へわ多くの貢物を贈り京都の文化を移入して中尊寺を中心とする東北文化の華を咲かせたのであるが、その樣しや著は東鑑にも記されておるが中尊寺の金色堂を見る事によつて窺たんすべ

---

## 石川根守兩君　夫々優勝

平正月將棋大會

平將棋互樂會主催の正月大會は十一日市内五丁目の新裝成つた會所で開催、參加者多く盛會だつたが、當日の入賞者は左の通りでB組では石川八級A組では根守十級がそれぞれ優勝した

◇B組優勝石川圓（八級）

二等江尻給一（六級）三等安齋龍之助（四級）四等荻野吉之助（八級）

◇A組優勝根守博（十級）

二等村田政雄（六級）三等中野一（六級）四等三浦宗三郎（八級）賀鈴木春海（八級）藤原一良（三級）鈴木與一郎（十五級）伊藤定作（三級）


## 一介紹畫映一

ロツパとエノケンの

## 代時鹿馬新

15日—平館で

山本嘉次郎演出、伊藤武夫浦島進のカメラによる東寶作品—ロツパとエノケンのコンビ映畫—

ハイヤク

小原　庄之進　古川　綠波
小原　金次郎　榎本　健一
庄之進妻あや子　三益　愛子
仲　庄太　大久保　進
金次郎妻お照　花井　蘭子
巡査長　逸見　高田　稔
巡査　宮原　如月　寬多
仝　矢田　長濱　藤夫

## 營業目種

家具・事務用机及建具
一般木工品類製造

## 平木工株式會社

本社　平市田町26電平71.455.772
工場　平市彌宜町13　電（平389）


## 盛況

警視廳巡査小原庄之進は敏腕で知られた會津磐梯山、小原庄助の子孫であるが、彼の濃厚な性格は丸公生活、闇買ひ禁止の生活を續けている堅い人物、署長の逸見は情深い性格で、庄之進の一微な性格を愛していた。

小原金次郎は愛妻お照ちやんと小料理屋を開業した許りであるが金儲けの爲闇屋になる事を考へていた。

或日金次郎は庄之進の闇取締りに捕り、逃げる途中偶然永年逢わなかつた姉に巡りあう。その姉こそは庄之進の細君あや子である。あや子は庄之進の仕事一點張りで家庭の事をかへり見ず、闇米を買つてはいけないという夫に對して金次郎に愚ちをこぼす。庄之進とあや子の一人息子庄太は、近所の子供と遊ぶのにグローブやミットがヤミ値で買つて貰えないので、何時も仲間はずれにされていた。

金次郎は庄之進の家が食うに困つているのを知り苦心してヤミ米を買つて運んでいるが、その度に庄之進の取締りに引つ掛り、危く逃げのびる。彼はヤミ屋の組長岩本や會長山村の紹介で、大野産業株式會社社長大野源三郎、課長田代と知る。大野こそは大量物資のヤミ取引をしているブローカーである。彼等は金次郎のお人好しを利用する爲仲間に入れる。飛行署長はヤミ列車を急襲するが、大野一味は既にこれを知り檢査官の驛で列車を降りて終つた。

庄之進はヤミ屋の金子から大野が多量の綿布を隱している事を聞き、金子を證人として、逸見以下署員と、料理屋で宴會中の大野を襲ひ、大亂鬪の末幾等一味を捕えるが、證人の田代は逃げて終う。金次郎も庄之進に捕えられた。然し證人を逃がし、課長の田代から監督官廳の國維品指令書を見せられ、釋放を要求され、盛方なく證據がないので釋放する。あや子とお照は金次郎が捕えられた事を知り面會に來るが、庄之進は初めて金次郎が弟であつた事を知る。

庄之進は金次郎からヤミ米を貰つていた事を知り、ヤミ屋から食はして貰つていた事と、大野一味の幾捕失敗に責任を感じ、辭職を決意する。金次郎は兄の一生を台無しにした事を知り惱んでいる。

所がそこに案晴らしい知らせが庄之進の許に屆いた。彼の待つていた山林から石炭が出て、一千萬円で賣れたという。俄然大金持になつた二人さてどうして金を使うであろうか？

## チューブの詐欺

鉄輪村大字高野龍氣業山田辰三（四五）はこの程詐欺罪で平署に檢擧、仝人儘年九月中市鍛冶町吉田龍次さんに米を世話してやるからとヤカ上、チューブ二本時價千円を受取りこれを同村富森傳さんに米五升と現金五百円で交換米だけを吉田さんに手渡し五百円は自己の生活費に消費した外一昨年五月中旬頃も同樣吉田さんから自轉車タイヤー及チューブ計四本時價千六百円を世話してやると偽り自分の自轉車に取付けていたもの


## 近日開店

森永製品外各種

皆樣の食料品店が出來ました、何んでも取揃へてあります、何卒よろしくお願ひします

## 不二食料品店

平市中央通（世界館入口）電八四五

## 節電休日に備へて

ヤンマーディーゼル

一馬力當り毎時重油一合一勺
三馬力以上百馬力迄
（受註即納）

福島縣山岡常磐ヤンマー製作所
内燃機代理　平市新川町電話九八四・八一九番

## 高級ライター

斯界の最高ポイント
高級プラチナ萬年筆　販賣中

## 敷種入荷

▲修理は親切丁寧に▼　平市三丁目電三九九番